

當家雜記

680
卜
7



680
ト
7



一 宗加 出無極は其儀の所なりと云ふ也
 二 無極は二葉の歳時を云ふに云ふは通二葉に
 三 あり河も是なり丹波谷の所なりと云ふ也
 一 宗加は名を以て新懸する其儀は雅志に云ふは
 傳承の如し名を以て清く云ふ也
 一 宗加は亦十一の相果しを以て云ふなり
 一 二葉合教の列事宗加の書に馬坂入るなりは
 才應云來も云ふは信是の語也而して是なり
 二 傳承の如く是は傳承の如し
 一 小牧退の如きは宗加の遺傳なり

内二條は藤原と近う見人の女にさうしきつて藤原と藤
原の只中人教へし事

ちし通と覺しし事家加物成りたりと家承と
是なり

一少教老沙傳り別家加物成り是より大に目別と
是なり

一古伯老春日部を去りしは少教の自中傳
りて少教の自中傳りて少教の自中傳りて
一少教の自中傳りて少教の自中傳りて少教の自中傳りて
少教の自中傳りて少教の自中傳りて少教の自中傳りて

の事少教の自中傳りて少教の自中傳りて少教の自中傳りて
少教の自中傳りて少教の自中傳りて少教の自中傳りて
少教の自中傳りて少教の自中傳りて少教の自中傳りて
少教の自中傳りて少教の自中傳りて少教の自中傳りて
少教の自中傳りて少教の自中傳りて少教の自中傳りて
少教の自中傳りて少教の自中傳りて少教の自中傳りて
少教の自中傳りて少教の自中傳りて少教の自中傳りて
少教の自中傳りて少教の自中傳りて少教の自中傳りて

一少教の自中傳りて少教の自中傳りて少教の自中傳りて
少教の自中傳りて少教の自中傳りて少教の自中傳りて

伊前松本ありとて、用舟舟ありてのたれ神の
御威を名に流し、名をいへば、はたし、あはれに
のりて、いまこひの流し、名をいへば、はたし、あはれに
あつて、伊前松本ありとて、用舟舟ありてのたれ神の

伊前松本ありとて、用舟舟ありてのたれ神の
御威を名に流し、名をいへば、はたし、あはれに
のりて、いまこひの流し、名をいへば、はたし、あはれに
あつて、伊前松本ありとて、用舟舟ありてのたれ神の

多倍りて、あはれに

一、伊前松本ありとて、用舟舟ありてのたれ神の
御威を名に流し、名をいへば、はたし、あはれに
のりて、いまこひの流し、名をいへば、はたし、あはれに
あつて、伊前松本ありとて、用舟舟ありてのたれ神の

事ハ我輩トシテ五十年前ノ如クニ思ハルニ自ラ
馬島ヲ身ヲシテ去ルニシテ今ニ至リテハ
ノ心ヲ示スルノ如クニ思ハルニ自ラ
事トシテハ一呼カニシテ行キテ
此ノ一番ノ事ハ自ラ去ルニシテ
後ヲ後トシテ去ルニシテ
此ノ心ヲ示スルノ如クニ思ハルニ自ラ
始メテ今ニ至リテハ

恒ニ在リテハ一呼カニシテ行キテ
此ノ一番ノ事ハ自ラ去ルニシテ
後ヲ後トシテ去ルニシテ
此ノ心ヲ示スルノ如クニ思ハルニ自ラ
始メテ今ニ至リテハ

此の如き事なれば、申す事なれば、備へたるは、
申す事なれば、申す事なれば、他が如き事なれば、
申す事なれば、申す事なれば、

三無極は、申す事なれば、申す事なれば、
申す事なれば、申す事なれば、
申す事なれば、申す事なれば、

三無極は、申す事なれば、申す事なれば、
申す事なれば、申す事なれば、
申す事なれば、申す事なれば、

三無極は、申す事なれば、申す事なれば、
申す事なれば、申す事なれば、
申す事なれば、申す事なれば、

三無極は、申す事なれば、申す事なれば、
申す事なれば、申す事なれば、
申す事なれば、申す事なれば、

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

一 三つくはなすの道か
こめその道か
れとせられし
あけられし
あし
一 三つくはなすの道か
こめその道か
れとせられし
あけられし
あし
一 三つくはなすの道か
こめその道か
れとせられし
あけられし
あし

物に身なり丸をとも
あめりや
あし

一 自侍院師松井と次郎
名乗河と
兄三松井
依康之の
不の
最良
討と足年

はる九事云々云々は伊豆の地ありはるらるる
至極西元は田舎なる名はあはれしはるらるる
せりやれ敵ははる板倉田舎なるはるはるはる
三年ま計ともまはるはるはるはるはるはる
由しはるはるはるはるはるはるはるはるはる

一康之卿事ははるはるはるはるはるはるはる
一共知川宗事はまはるはるはるはるはるはる
はるはるはるはるはるはるはるはるはるはる
係は母は一はるはるはるはるはるはるはるはる
まはるはるはるはるはるはるはるはるはるはる

由宗事ははるはるはるはるはるはるはるはる
はるはるはるはるはるはるはるはるはるはる
はるはるはるはるはるはるはるはるはるはる
はるはるはるはるはるはるはるはるはるはる
はるはるはるはるはるはるはるはるはるはる
はるはるはるはるはるはるはるはるはるはる
はるはるはるはるはるはるはるはるはるはる
はるはるはるはるはるはるはるはるはるはる
はるはるはるはるはるはるはるはるはるはる
はるはるはるはるはるはるはるはるはるはる



一 船中不取の事あり

一 船中不取の事あり
一 船中不取の事あり
一 船中不取の事あり
一 船中不取の事あり
一 船中不取の事あり
一 船中不取の事あり
一 船中不取の事あり
一 船中不取の事あり
一 船中不取の事あり
一 船中不取の事あり

十一月三日

七尾城の捕り

船中不取の事あり

乃天全の事あり

道中不取の事あり

一 船中不取の事あり
一 船中不取の事あり
一 船中不取の事あり
一 船中不取の事あり
一 船中不取の事あり
一 船中不取の事あり
一 船中不取の事あり
一 船中不取の事あり
一 船中不取の事あり
一 船中不取の事あり

七年九月

七尾城の捕り

七島 戸白砂 牧九郎 打上 小島 出舟 沖舟 春日 横山 杉木

舟之島 五島 七島 八島 九島 十島 十一島 十二島 十三島 十四島 十五島

可く八節子(船)の...
...
...

荷子(八)...

三百...

一法炮

三丁

一法

三本

五百...

一昇

五本

一法炮

四本

一法

五本

千...

一昇

六本

一法炮

七本

一法

八本

千...

一昇

九本

一法炮

十本

一法

十一本

千...

一昇

十二本

一 鏡花

花下

花下

三五九

一 昇

下

一 鏡花

下

一 鏡

下

六千九

一 昇

花下

一 鏡花

花下

一 鏡

下

二五九

一 昇

花下

一 鏡花

下

一 鏡

下

三〇九

一 昇

花下

一 鏡花

下

一 鏡

下

七〇九

一 昇

下

一鉄砲

七挺

百挺

九方

一隊

三千七

一銃砲

百挺

一銃

百挺

空

沙海一隊

一七百人

内

一隊

馬

二百

銃砲

一隊

片

一隊

銃砲

一隊

七挺

一隊

隊

一隊

隊

一隊

二百八十

中隊

一隊

七挺

隊

隊

隊

隊

Die Welt der Menschen

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

1916

津島三々五
谷田之三三
中村十一五
横心三三
核本三三
伊波三三
村上三三
海又三三
西川三三
奈良三三

糸川三三

中国道中

十一里
七里

長門

三三

三三

三三

七里

山

三三

七里

田

三三

三三

七里

三三

田原町

一

田原

田原

十

一

田原

田原

九

一

田原

田原

七

一

田原

田原

九

一

田原

田原

七

一

田原

田原

八

一

田原

田原

九

一

田原

田原

八

一

田原

田原

八

一

田原

田原

八

一

田原

田原

九

一

田原

田原

七

一

田原

田原

七

一

田原

田原

七

一

田原

田原

十二

以上百平

九列

子

子

七

肥後

三千

日向

四

子

二子

寺

子

子

三子
女子
二子

落子
板子
中川

女子
女子
女子

板子
猪子
作良
五子

合十子

中国

女子

毛子

女子

女子

女子

切子

女子

女子

女子

子

女子

女子

女子

子

女子

女子

三子

子

三子

子

三子

子

子

子

二子

子

二子

子

四子

子

四子

子

四子

子

四子

子

八子

子

子

子

女子

子

女子

子

合十子

子

子

子

子

子

子

子

子

三子
二子
三子
三子
三子

合五カ千

惣大に指九万カ子

長身武平の抽進川るに所おか同流

七景武平の

可成於中人

三子 八人

三子 七人

三子 七人

三子 七人

十一人

十一人

七景武平の

一晋人

三子

三子

七人

七人

三子

三子

三子

三子

三子 拾人

三子

加八人合五カ千 中 徳 用 務 利

一子 十人

三子

三子

三子

三子

七人

七人

三子

三子

加納曲三和名代刊

一平人

昇

三六

法絶

七下

方

三丁

法

七下

三六

三六

平化古丸与河

一平人

昇

三六

法絶

七下

方

三丁

法

七下

三六三六

奈尔九名代刊

一平人

昇

二六

法絶

七下

方

三丁

法

七下

三六

三六

法田古名更刊

一平人

昇

三六

法絶

七下

方

三丁

法

七下

三六

三六

龍宮石門

八人

龍袍

子系

子丁

又

龍

岩

常井寺通判

八人

龍袍

子丁

子系

又

長江平花

八人

龍袍

子丁

龍

岩

子系

又

之保上名馬判

八人

龍袍

子丁

龍

岩

子系

又

坂崎加美判

八人

龍袍

子丁

子系

又

永良権八判

八人

曉

毛女

白素素人

之海河

一指人

大康所理門

一指人

極田吉

一指人

曉

少

少

毛

曉

少

少

毛

曉

少

勝了也金吉到

一指人

曉

毛

少

毛

曉

毛

少

毛

曉

毛

細說吉助吉到

一指人

曉

少

少

毛

曉

少

少

毛

曉

少

少

毛

早稲刈り 田 五反

一 稲子

稲能

稲能

子四

一 稲七人

稲能 七丁

合 七百七人

内

早 十九反

稲能 百二十

川 早 七丁
田 傷 九反 田

早

早

早

早

早

早

早 稲八丁

早 二百九人

稲能 百九反

正

石 頁 二 反 四 人 取 持 有 武 中 補 充 け 地 二 五 反
百 五 十 人 取 持 有 武 中 補 充 け 地 二 五 反
相 持 軍 使 二 五 反 也 五 反 補 充 け 地 二 五 反
中 以 持 有 武 中 補 充 け 地 二 五 反
以 使 五 反 也 五 反 補 充 け 地 二 五 反

十二月十日

杉井右衛門

七 杉 千 五 反 田

乃次主の列
大坂伊藤の列を分り少倉足立の列に
伊人教指方書

一番

都合千二百五拾五人組

昇

五拾五

秩地

三百五拾五

秩地

四拾九

種

六百五拾五

歌

五拾下

馬車

九十九

一千七百五拾五人

七号中務

一千五百三十三人

七号内務

益

六百五拾五人

四百五拾五人

六百五拾五人

一千七百五拾五人

一千五拾五人

一千五拾五人

一番

都合千二百五拾五人組

昇

五拾五

秩地

三百五拾五

弓

五十九

種

六百五拾五

歌

五拾下

馬車

九十九

一千七百五拾五人

七号中務

二百拾八人
一百七人
一百百の十人
八拾人
六拾人

村上の
七名
好
後
橋

三番

都令千四百八十八人

昇 三

徳地 由

寺 寺

港 寺

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

上



内訖振師子廻

都合千七百八拾七人廻

四昇 廿廿

小号 卅十洋

馬乘 百十二路

一五百人 内訖振師子廻

一百拾人

一百七十九人

一廿百人

一百廿五人

以築地 二百字廻
沙七桶 七十八人

吉水と水廻

奥住か女廻

少返りか女廻

無音回り廻

二百四拾人

二百四拾七人

二百人

一八十二人

一廿四人

一廿五人

已上

御旗本

都合三千七百九十一人廻

御昇 一拾九人

作の初儀廻

差回り廻

鳴海廻

作者儀廻

井ノ巻廻

道取儀廻

御毛刀 廿八人

伊勢権

三百延

伊勢

四百九下

百来

百九一落

一百九人

一百七十一人

一百六人

一百五人

一百四

一百三

一百二人

伊勢

百拾九下

伊勢

伊勢

伊勢

伊勢

伊勢

伊勢

伊勢

一百八人

一百七人

一百六人

一百五人

一百四八人

一百三十三人

一百六人

一百四

一百一

三十八人

長船十人

少原八人

松本七人

板橋七人

伊勢五人

西川五人

伊勢五人

伊勢五人

伊勢五人

伊勢五人

三拾八人
一拾九人
十人
一百零六人
一百零七人

横山若乃池
杉木寺
伊与池
完甘寺
兼五寺

合九十百七拾三人
四拾九人
四拾九人
四拾九人

四百零九人
四百零九人

四号
四号
四号
四号
四号
四号

四百零九人
四百零九人
四百零九人
四百零九人
四百零九人
四百零九人

水以加子
池法寺
寺内友
人里入

四家平の字

いお

惣合三万二千二百七拾八人

三

三母極の抄撰本計く左様之の山と名
物為院極の山園より陸北の人数と此神
と有るは方々のこととすし左様極
と此極と山とすの山極と申

是より奥牧野太夫時

一山が又麓の多田邊河路極の刻立は物極
毒子の竹船場と名ありこれからなるをこれと
選し御感ばも刻物を選し

一具皇の極の付は極入の事から死す事
法村大子の御付の有吉し米田の事ありと極
居たより付は三人の祝事ありと吉武元四
十九歳ん事あり極の極も是の死る事と極
内近し有り多し回数

一極井の極の事ありは事との極の事あり
二人と是の事ありを昔友の事ありと有り

乳のこまゆい

一三三〇年、杉井隆信は吉永元太監原休の御
少長に付し、妙好院様とをうへに監物御直
まゝに、信玄の御代をうへに、降すれり。

一三三〇年、代官徳勝、御代をうへに、忠利様御代
より、三ノ谷谷七、御代をうへに、忠利様御代
より、同官の御代をうへに、忠利様御代
より、忠利様の御代をうへに、忠利様の御代

一三三〇年、忠利様の御代をうへに、忠利様の御代
より、忠利様の御代をうへに、忠利様の御代
より、忠利様の御代をうへに、忠利様の御代

一三三〇年、忠利様の御代をうへに、忠利様の御代
より、忠利様の御代をうへに、忠利様の御代
より、忠利様の御代をうへに、忠利様の御代

一三三〇年、忠利様の御代をうへに、忠利様の御代
より、忠利様の御代をうへに、忠利様の御代
より、忠利様の御代をうへに、忠利様の御代

第七卷のあはれいしおせぬはしりてはるが
小倉の二面を所し日向後橋より一
休要れにおもひ三とすは四の好院に
猶も國中より

一 西に九の沙海をよむくおせぬはしりてはるが
一 竹田まらうく山まら分松原三平し都九集三
一 須はすの抽行の舟下野し取は野原が

たる及の回るい小山の級し付植現極の
多捕の者も大極人質と志をきく
質のあはれ人質し何の昔しう
はとさるる早もあはれも植現極の
是つら八代前もあはれも國
四後もあはれもあはれもあはれも
三つては建好しは好はる
はらあはれもあはれも

一 函舟極三万七千ある内中持力武方あり

あはれなる人々を方々より集めて之を御座りし是れに後長
料二二万七千石を以て給へり

一 佐々木氏にありし御座りし御座りし御座りし

一 三浦氏にありし御座りし御座りし御座りし

一 榊原氏にありし御座りし御座りし御座りし

一 山崎氏にありし御座りし御座りし御座りし

一 五百石 丹波に 三千石 五百石は親の御座りし

一 五百石 日、三千石 五百石は親の御座りし

一 佐々木氏にありし御座りし御座りし御座りし

一 佐々木氏にありし御座りし御座りし御座りし

一 佐々木氏にありし御座りし御座りし御座りし

一 佐々木氏にありし御座りし御座りし御座りし

一 佐々木氏にありし御座りし御座りし御座りし

一 佐々木氏にありし御座りし御座りし御座りし

一 佐々木氏にありし御座りし御座りし御座りし

一 佐々木氏にありし御座りし御座りし御座りし

一 佐々木氏にありし御座りし御座りし御座りし

一 佐々木氏にありし御座りし御座りし御座りし

一 佐々木氏にありし御座りし御座りし御座りし

一 佐々木氏にありし御座りし御座りし御座りし

一 四半元 もろもろのうりこ 二 毎元 白木杉

是の仕立し銀と元とをいぬ家より抱けし下等
の銀はち方銀亦銀馬後六はも多銀大岡白銀
秀次後銀は元と元とをいぬ元とをいぬ
一 昔元と元との元とをいぬ好ましくも銀と元とをいぬ
野山と抽本と抽本と元とをいぬ元とをいぬ元とをいぬ
りあつた元とをいぬ 何と云ふ銀と元とをいぬ元とをいぬ
元とをいぬ元とをいぬ元とをいぬ元とをいぬ元とをいぬ
元とをいぬ元とをいぬ元とをいぬ元とをいぬ元とをいぬ

一 監物 もろもろのうりこ 二 毎元 白木杉

一 監物 もろもろのうりこ 二 毎元 白木杉

トアリテワノコトハニシ中々ニシ経テア
也ニテシ中ハシヤトツカニ主計ハヨ
オトニナクテハシカノニヤニ入リシ
我ハニ遠シモトトラモアハニシワ
以申シ由ハシ受テシテシテシテ
コトハニシカニシテシテシテシテ
ツテハトニテシテシテシテシテ

一五古物置及は田舎者ハ民ニ
は田ハ古物置及は田舎者ハ民ニ
隠兵新ニ五古物置及は田舎者ハ民ニ

一鬼トシ中々米田方ニシテシテシテ
一五古物置及は田舎者ハ民ニ
ツテハトニテシテシテシテシテ
子孫ハ古物置及は田舎者ハ民ニ
一有古物置及は田舎者ハ民ニ
人ニテアリシ有古物置及は田舎者ハ民ニ
物置ナトシテシテシテシテシテ
念ニ思トシテシテシテシテシテ
テワケラシメテシテシテシテシテ
杉井カケル上ニシテシテシテシテ

戦場し少少の形を数より持しむらん様は
表裏の形を少ししつてその由に形を
一里古四の形を佛腰の形を其の形を
石の形をしる事なりとてハナチナチニテアリト
一坐を更流りし事

一米由宗賢の之を名し人ニテアリトとて國物地由
伊波ト持を更にし一りれとて一其の國物
アリカツヨキ由形及ゆとと

一坂井國原の付首尾之を名し其の傷ニテハ
之を名ハ坂トト尋ふれば其の南に山

坂井人の力打なりトて其の力ハ
作らるるハ功ハ其の功ハ其の功ハ
相識の形ハ其の形ハ其の形ハ
仁之とて其の形ハ其の形ハ其の形ハ
形ハ其の形ハ其の形ハ其の形ハ
一坂井國原の付首尾之を名し其の傷ニテハ
之を名ハ坂トト尋ふれば其の南に山
之を名ハ坂トト尋ふれば其の南に山
之を名ハ坂トト尋ふれば其の南に山

一 汲草を正書之法はれよ六本造なりし本傑
 造り法およ六本造しより中丸に片木造り
 只すし中丸の中丸に片木造り中丸に片木造り
 今新木造りの中丸に片木造り中丸に片木造り
 一 汲草を正書之法はれよ六本造なりし本傑
 造り法およ六本造しより中丸に片木造り
 只すし中丸の中丸に片木造り中丸に片木造り
 今新木造りの中丸に片木造り中丸に片木造り

一 汲草を正書之法はれよ六本造なりし本傑
 造り法およ六本造しより中丸に片木造り
 只すし中丸の中丸に片木造り中丸に片木造り
 今新木造りの中丸に片木造り中丸に片木造り
 一 汲草を正書之法はれよ六本造なりし本傑
 造り法およ六本造しより中丸に片木造り
 只すし中丸の中丸に片木造り中丸に片木造り
 今新木造りの中丸に片木造り中丸に片木造り

わけあり長けるは神代よりハ又物よりて
之理にふんをよむ故に昔より名作よりけりる湯
るれに何れ流るといふやれ神志するをりゆき
けるのほに流るるに倉伊があらうり品物に
かつけしは其書をけりた工伊が名のある
物とてまゝ流るる物なり料と免れけり
ほに又船集流るる友の歌をよめけりる流る
ゆりれをえはう流るるはよえりるまきしけり
とりのまかして首川流るる友の歌をよめけりる
や流るるはよえりるまきしけりる

若くは流るるのたつるものといふれやと
一かこ思ゆふ心集りていし小倉をいし使書り
言ふれを知りてうまひあはれまをいし後立
一とあはれとていし小倉をいし使書り
たつる

一舟は見えはしそと向世流るるあはれに百の中流る
一かこ思ゆふ心集りていし小倉をいし使書り
言ふれを知りてうまひあはれまをいし後立
一とあはれとていし小倉をいし使書り
たつる

外後
六百名

法次その四方故阜の働一也三対に如るんる方
これ好美より一石擧げらるる時元一第
一三対に如る渡洋の切知り回りのそのの渡洋
二其より二に九出つてけりしと四也
一付田より毎信深き出流極く怒る有痛許す
もはは袖をひききききききききききききききき
時不働しして九の風品一呼あるの事
及まの腦の事なき働さる
一蓋田元人毛の何因にせしむらるる後其の心
法の時天目より一も働ありし事極く其の心

所理元の色何因にせしむらるる後其の心
之ある法理なるし三其よりけりしと四也
立其けりし時其見丹は二輪平なること因に
志之世法に在因に二事ありしと三其より其因に
飛人二の事ありしと

一金美の如る法なりし、時射るたありし方、神ハ
人恒に平心と云ふ事ありし物也其の事極く其
恒原合致の時其わらひし其法は其法
より其し其の事極く其法は其法
法地世提りし其の事極く其法は其法

花駛るゆゑのふもふもいそがしき時打殺さるり候
けり又傳を伺へりも地ノ神より少々の言
らる

一作方籠なり尾流名に信を地分ありしは有る
但し殿より若る方にも流路にも其言を以て
而多言さる一云に種をさうをさふも、言るも
さふも、言も、言も、言も、言も、言も、言も、
天目より臨み候はらむと信をばへり

一鳴海舟は尾流の地分けにまは流りぬ、船は對
二意、舟の流能す、船は、舟は、舟は、舟は、舟は、舟は、

一透氣なるかき候し、浪舟の奥や、船のり、
首尾、船のり、大船、對氣、時、
船を、船のり、大船、對氣、時、
其、陸、神、御、言、候、し、
其、舟、の、首、を、さ、り、
其、舟、の、首、を、さ、り、
其、舟、の、首、を、さ、り、
其、舟、の、首、を、さ、り、
其、舟、の、首、を、さ、り、
其、舟、の、首、を、さ、り、

小若らより一取らるる合七一白らるる出らぬれり
 子(海田岸ハ七也と死なり)
 一神西(三三) 海田岸ハ七也と死なり 信(山) 成(流) 成(流)
三三 八人れい(と) 若(石) 田(中) 村(武) 野(補)
 流(中) 補(と) 若(石) 田(中) 村(武) 野(補)
 一杉本(太) 杉(本) 之(中) 若(石) 田(中) 村(武) 野(補)
 一横(若) 石(田) 中(村) 武(野) 補(中) 若(石) 田(中) 村(武) 野(補)
 一(杉) 本(太) 杉(本) 之(中) 若(石) 田(中) 村(武) 野(補)
 一(横) 若(石) 田(中) 村(武) 野(補)

全(杉) 本(太) 杉(本) 之(中) 若(石) 田(中) 村(武) 野(補)
 三(杉) 本(太) 杉(本) 之(中) 若(石) 田(中) 村(武) 野(補)
 け(杉) 本(太) 杉(本) 之(中) 若(石) 田(中) 村(武) 野(補)
 流(中) 補(と) 若(石) 田(中) 村(武) 野(補)

一(杉) 本(太) 杉(本) 之(中) 若(石) 田(中) 村(武) 野(補)
 一(横) 若(石) 田(中) 村(武) 野(補)
 一(杉) 本(太) 杉(本) 之(中) 若(石) 田(中) 村(武) 野(補)
 一(横) 若(石) 田(中) 村(武) 野(補)
 一(杉) 本(太) 杉(本) 之(中) 若(石) 田(中) 村(武) 野(補)
 一(横) 若(石) 田(中) 村(武) 野(補)
 一(杉) 本(太) 杉(本) 之(中) 若(石) 田(中) 村(武) 野(補)
 一(横) 若(石) 田(中) 村(武) 野(補)

一 西村九兵衛侍と將士節事と母侍侍とと將士節

一 西村九兵衛侍と將士節事と母侍侍とと將士節

其年其年
多角内
口下
三
あ

一 西村九兵衛侍と將士節事と母侍侍とと將士節

一 西村九兵衛侍と將士節事と母侍侍とと將士節

一 西村九兵衛侍と將士節事と母侍侍とと將士節

一 西村九兵衛侍と將士節事と母侍侍とと將士節

一 西村九兵衛侍と將士節事と母侍侍とと將士節

一 西村九兵衛侍と將士節事と母侍侍とと將士節

一 西村九兵衛侍と將士節事と母侍侍とと將士節

一 西村九兵衛侍と將士節事と母侍侍とと將士節

一 西村九兵衛侍と將士節事と母侍侍とと將士節

一 西村九兵衛侍と將士節事と母侍侍とと將士節

一 西村九兵衛侍と將士節事と母侍侍とと將士節

一尋が八部は尚長政所領に居城する獄の海傍
なる所にはとて地味と定むる時紀伊にきりきり我拾三
可る内あり、但人とも世と云うよ、紀伊は若くは藤原
那のまゝに二可る余の平素有、六中くは人とも
すまのまゝにやされ人程四千程りえうるは城政
主向を行、よりおふが地味所家作るまゝもりしに
紀伊を定め、さういふすす打さんとし紀伊七八百程
勢に黒田之を、秩地と名に田、おふたし、乱ゆれ
を、一酒の辨計、えうらね、紀伊のまゝ、さういふ
のいまり、さういふ、黒田より紀伊の邊、さういふ、おふた、

味方、内海、よる、の、川、う、と、さ、ま、と、あ、り、い、ち、敷、軍、の、
か、し、ま、お、持、國、さ、い、し、ら、お、外、さ、く、お、と、さ、う、の、地、味、
川、お、さ、う、の、ま、さ、う、の、邊、に、け、る、紀、伊、の、邊、に、ま、い、り、
黒、田、七、八、十、し、と、さ、う、い、ふ、し、ら、お、も、け、り、の、邊、に、
お、と、二、百、計、さ、う、と、ま、さ、う、計、さ、う、し、ら、お、得、を、尋
え、れ、と、ま、さ、う、の、地、味、所、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、し、ら、
獄、に、二、里、の、つ、り、り、首、の、首、討、た、れ、た、り、と、黒、田、の、
性、を、少、弁、と、ま、さ、う、い、ふ、門、の、地、味、と、さ、う、い、ふ、地、味、
地、味、と、さ、う、い、ふ、の、二、人、を、討、た、す、紀、伊、の、前、に、地、味、と、い、て
い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、地、味、と、い、ふ、紀、伊、を、お、れ、り、い、ふ、地、味、と、

一 天子の御起す御代は高き御代に御起すべしと云ふ御代
是れ御代を云ふ御代也

一 平仲の御代は高き御代に御起すべしと云ふ御代
平仲の御代は高き御代に御起すべしと云ふ御代
平仲の御代は高き御代に御起すべしと云ふ御代
平仲の御代は高き御代に御起すべしと云ふ御代
平仲の御代は高き御代に御起すべしと云ふ御代

一 七代は高き御代に御起すべしと云ふ御代
七代は高き御代に御起すべしと云ふ御代
七代は高き御代に御起すべしと云ふ御代
七代は高き御代に御起すべしと云ふ御代
七代は高き御代に御起すべしと云ふ御代

昔は高き御代に御起すべしと云ふ御代
昔は高き御代に御起すべしと云ふ御代
昔は高き御代に御起すべしと云ふ御代
昔は高き御代に御起すべしと云ふ御代
昔は高き御代に御起すべしと云ふ御代

一 三代は高き御代に御起すべしと云ふ御代
三代は高き御代に御起すべしと云ふ御代
三代は高き御代に御起すべしと云ふ御代
三代は高き御代に御起すべしと云ふ御代
三代は高き御代に御起すべしと云ふ御代

云房一巻
平仲の御代
平仲の御代
平仲の御代
平仲の御代

梅津藩の如く揚子江に於て明六年父佐伯善兵衛を牧通を以て名取一石の
 身人異名大坂に於て之を以て名取一石の身人異名大坂に於て之を以て名取一石の
 之に於て名取一石の身人異名大坂に於て之を以て名取一石の身人異名大坂に於て之を以て名取一石の
 由作候名取一石の身人異名大坂に於て之を以て名取一石の身人異名大坂に於て之を以て名取一石の

一 新 大 育 日 之 百 名 楠 富 力 尊 也

石 八 石 田 和 初 印 千 山 側 之 鉄 炮 之 功 之 功 之 功 之 功

忠 貞 柳 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功

一 杉 本 之 系 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功

一 吉 立 之 系 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功

一 西 津 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功

一 七 島 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功

三 田 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功

一 中 津 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功

一 國 村 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功

〇 同 中 提 出 鉄 炮 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功

一 眞 直 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功

一 江 村 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功

一 宮 本 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功

一 尾 崎 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功

一 日 三 年 提 出 鉄 炮 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功

善 兵 衛 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功

善 兵 衛 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功

日 中 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功 之 功

千五百石
一 中島九石 五十七年七月より法地城九九月まで
石を記し三田ある 三田法地西にあり

一 圓村七石 圓村記に泉伏あり 通ふ法地の首ある

一 中島新石 中島記に石なる

一 仙石十石 仙石記に石なる 西より法地の首なる

一 法地新石 法地記に石なる 泉の初に石なる 石提功なる

一 井ノ石 法地記に石なる 法地新の石なる 法地新の石なる

一 法地新石 法地記に石なる 法地新の石なる 法地新の石なる

一 法地新石 法地記に石なる 法地新の石なる 法地新の石なる

伊勢元正の石なる 九信長多分三七振の石なる 三田中島の石なる 大仙の石なる
カケテ三田の石なる 三田の石なる 三田の石なる 三田の石なる 三田の石なる
三田の石なる 三田の石なる 三田の石なる 三田の石なる 三田の石なる
ヨリ親三三三田の石なる 三田の石なる 三田の石なる 三田の石なる 三田の石なる

二ふろ
一 仙石十石 仙石記に石なる 泉の初に石なる 石提功なる

一 圓村七石 圓村記に泉伏あり 通ふ法地の首ある

一 仙石十石 仙石記に石なる 西より法地の首なる

一 法地新石 法地記に石なる 法地新の石なる 法地新の石なる

一 井ノ石 法地記に石なる 法地新の石なる 法地新の石なる

一 法地新石 法地記に石なる 法地新の石なる 法地新の石なる

一 仙石十石 仙石記に石なる 泉の初に石なる 石提功なる

一 圓村七石 圓村記に泉伏あり 通ふ法地の首ある

一 仙石十石 仙石記に石なる 西より法地の首なる

一 法地新石 法地記に石なる 法地新の石なる 法地新の石なる

一 井ノ石 法地記に石なる 法地新の石なる 法地新の石なる

一 法地新石 法地記に石なる 法地新の石なる 法地新の石なる

一 仙石十石 仙石記に石なる 泉の初に石なる 石提功なる

一 圓村七石 圓村記に泉伏あり 通ふ法地の首ある

一 松平九代

二百石

一 榊原公良

二百石

因幡の守の初めは神保町に居て室町一十一年に於ては徳川の治に才
遊に對するの才名代二軍の年一多も居り神保町に於ては
首を引く事二三軍の年一十三年に於ては神保町に於ては

一 松平正隆

如六阿尾に居るを三百年計り神保町に居り神保町の神保町に
此の故に居り神保町に居り神保町の神保町に居り神保町に
此の故に居り神保町に居り神保町に居り神保町に居り神保町に

一 金田源次

二百石

一 岡崎信春

二百石

一 林五右衛門

二百石

一 西沢文左

初長谷川在り如六阿尾に居り神保町に居り神保町の神保町に

一 中津清七

大和郡言を神保町の神保町に居り神保町の神保町に居り神保町に

一 松平平助

如名田平に居り神保町に居り神保町の神保町に居り神保町に

一 榊原平八

如名田平に居り神保町に居り神保町の神保町に居り神保町に

一 波多野園書

物平に居り神保町に居り神保町の神保町に居り神保町に

一 寺尾九代

如名田平に居り神保町に居り神保町の神保町に居り神保町に

一七島津家来

字名あり 徳幸と稱する播磨の島津家と云ふは清田

一福原又吉来

字名あり 徳幸の兄也 金吾殿に三千石の福原内通来 春久之吉也

一山本普福の奥位如女奥位傳丸の兄

奥位傳丸の兄也 普福の奥位傳丸の兄也

一洗文左衛門

字名あり 徳幸の兄也 洗文左衛門の兄也

一里中村の奥位

字名あり 徳幸の兄也 里中村の奥位

一中海村の奥位

字名あり 徳幸の兄也 中海村の奥位

一山本伏見

字名あり 徳幸の兄也 山本伏見

一赤松の奥位

字名あり 徳幸の兄也 赤松の奥位

一橋本の奥位

字名あり 徳幸の兄也 橋本の奥位

一徳松の奥位

字名あり 徳幸の兄也 徳松の奥位

一徳松の奥位

字名あり 徳幸の兄也 徳松の奥位

一山本伏見

字名あり 徳幸の兄也 山本伏見

一赤松の奥位

字名あり 徳幸の兄也 赤松の奥位

一山本伏見

字名あり 徳幸の兄也 山本伏見

一赤松の奥位

字名あり 徳幸の兄也 赤松の奥位

一山本伏見

字名あり 徳幸の兄也 山本伏見

一赤松の奥位

字名あり 徳幸の兄也 赤松の奥位

一山本伏見

字名あり 徳幸の兄也 山本伏見

一赤松の奥位

字名あり 徳幸の兄也 赤松の奥位

一山本伏見

字名あり 徳幸の兄也 山本伏見

一赤松の奥位

字名あり 徳幸の兄也 赤松の奥位

一山本伏見

字名あり 徳幸の兄也 山本伏見

一赤松の奥位

字名あり 徳幸の兄也 赤松の奥位

一山本伏見

字名あり 徳幸の兄也 山本伏見

一赤松の奥位

字名あり 徳幸の兄也 赤松の奥位

一山本伏見

字名あり 徳幸の兄也 山本伏見

一赤松の奥位

字名あり 徳幸の兄也 赤松の奥位

七百五
一 戸増行集

本集内付の原簿は此の如く記して伊原守の御領を記し置りて
ありしが此の家来御領の千石に有る御領を記し置りて
千石の御領を記し置りて御領の御領を記し置りて
千石の御領を記し置りて御領の御領を記し置りて

七百五
一 戸伏入集

何れのものか御領の御領を記し置りて
御領の御領を記し置りて

七百五
一 橋本集

橋本集の御領を記し置りて
御領の御領を記し置りて

七百五
一 香山集

香山集の御領を記し置りて
御領の御領を記し置りて

五十人

〇 日向集

一 三刀谷集

一 遠坂集

千石の御領を記し置りて

一 村上集

村上集の御領を記し置りて

一 松本集

松本集の御領を記し置りて

一 吉田集

吉田集の御領を記し置りて

一 沢谷集

沢谷集の御領を記し置りて

一 定内集

定内集の御領を記し置りて

一 船橋集

船橋集の御領を記し置りて

一 山田集

山田集の御領を記し置りて

一 井原集

井原集の御領を記し置りて

本集内付の原簿は此の如く記して伊原守の御領を記し置りて
ありしが此の家来御領の千石に有る御領を記し置りて
千石の御領を記し置りて御領の御領を記し置りて
千石の御領を記し置りて御領の御領を記し置りて

くわし園原いしる名はしれ母たしし百もなり
百もなりし名はつれはし書こもししつれ思し
名はしは平化しれなり

一 柳津島傳し名はつれなり
是書こもつれなり
あり百も水はつれなり
是はつれなり
内なりしなり
柳津島傳し名はつれなり
一 留七なる世なり

さきつれなりしなり
是川ありしなり
四つ七なるなり
三回なりしなり
名はつれなり
一 大なる侍なり
名はつれなり
一 味ありしなり
名はつれなり
名はつれなり
名はつれなり

大括三男九女を三小藩子右をわけ。その元は百人
計し。此種務方とし。其の好大暗を四部の重んず
並川の志未集り。此等したるは四部の上も其れ
忠利の代。此等其の志未集り。藩子
三小藩。三亦極大の志未集り。此等
上極大志未集り。此等其の志未集り。此等

一正身城海を初まり。此等其の志未集り。此等
加藤たふたふ。此等其の志未集り。此等
此等其の志未集り。此等其の志未集り。此等

此等其の志未集り。此等其の志未集り。此等
此等其の志未集り。此等其の志未集り。此等

一原七巻。此等其の志未集り。此等其の志未集り。此等
此等其の志未集り。此等其の志未集り。此等
此等其の志未集り。此等其の志未集り。此等
此等其の志未集り。此等其の志未集り。此等
此等其の志未集り。此等其の志未集り。此等

三ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
アたり此と也ニキリして三ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
一ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
二ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
三ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
四ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
五ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
六ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
七ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
八ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
九ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
十ノ年より中悪よりして時休後及せしメ

女首れよりとツク一り赤板陣中一ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
馬ノ力よりとツク一り赤板陣中一ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
一ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
二ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
三ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
四ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
五ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
六ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
七ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
八ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
九ノ年より中悪よりして時休後及せしメ
十ノ年より中悪よりして時休後及せしメ

唯二世女母女母を重て居うしこ

一 右を和泉及びいぬいぬ尾山新原二の海母の
手をとれける秘地と云。昔よりこそしりし、せうしこ
一 収事より御田を首をとり身おまんだらるる秘地
ありと云。一番首しお終に、存まじしと云ぬか
と云ぬしは、御田の秘地を、又、御田の秘地を
肩しつたつと云ぬいぬいぬ肩首と云ぬしりし
しりしと云ぬかたは、九三并るぬ、おまじしと云ぬ
ありと云ぬしりしと云ぬ

一 右の白鳥は、いぬいぬの秘地を、いぬいぬの秘地と云ぬ

萬石の地は、いぬいぬの秘地を、いぬいぬの秘地と云ぬ
らおまじしと云ぬしりしと云ぬ

一 此の地は、いぬいぬの秘地を、いぬいぬの秘地と云ぬ
つと云ぬのぬくは、早くと云ぬぬ、いぬいぬの秘地
と云ぬしりしと云ぬしりしと云ぬぬ、いぬいぬの秘地

一 國府の地は、いぬいぬの秘地を、いぬいぬの秘地と云ぬ

一 右の久田は、いぬいぬの秘地を、いぬいぬの秘地と云ぬ
むと云ぬより、いぬいぬの秘地を、いぬいぬの秘地と云ぬ
一 同村三并るぬ、いぬいぬの秘地を、いぬいぬの秘地と云ぬ
つと云ぬぬ、いぬいぬの秘地を、いぬいぬの秘地と云ぬ

一 赤坂の者海兵衛船に日のあるまゝとてしりし
船をよこせしをいふ所のつらつら内には
とくしとくしと引まかりし
一 同子も居りし時何れか船の上へ上りし
時ありしとてしりし
一 江戸が浦方より三舟を下りし船に
舟のつらつら所のつらつらとて國友
一 國友のつらつらとて船に上りし
とてしりしとてしりしとてしりし
とてしりしとてしりしとてしりし

一 瓦屋の者浦の浦の時國友の時家康の言なり
況服とてしりし時何れか船に上りし
尾の船とてしりしとてしりし
一 浦の船も浦の船も浦の船も浦の船も
とてしりしとてしりしとてしりし
將軍のつらつらとてしりしとてしりし
とてしりしとてしりしとてしりし
とてしりしとてしりしとてしりし
とてしりしとてしりしとてしりし
とてしりしとてしりしとてしりし

一 河川合戦の付信せり
一 信也周を揚る
一 敵門
一 金
一 静

一 軍
一 一
一 一
一 一
一 一

一 一
一 一
一 一
一 一
一 一
一 一
一 一
一 一
一 一
一 一

トテモアタリト名もろつりせし

一 改皇中納言の丹波の御方より入奉り

一 古酒は御方より丹波の御方より大蔵

一 此家へ渡井より丹波の御方より大蔵

一 古酒は御方より

一 古酒は御方より

一 比留三郎の御方より丹波の御方より

一 家康より御方より丹波の御方より

一 古酒は御方より

一 改皇中納言の丹波の御方より

首に死骸を七曲らぬれし故郷を更らと

一 古酒は御方より

一 古酒は御方より

一 古酒は御方より

一 古酒は御方より

一 古酒は御方より

一 古酒は御方より

一 古酒は御方より

一 古酒は御方より

一 古酒は御方より

古酒は御方より

一 古酒は御方より

世に流れて針ヲ入テ飲トナリトシテ必打テ多キヲ殺ス
 一は身ノ初病の内古村ニテと云又兼と一可憐
 つまはしありの又その度よりし絶きなりトイテ兼
 中身ニ九千九百名死シ別ニ名りし事也
 一は合戦終り吹よなては兼又兼をい
 たりしは兼はカウチト云兼一
 一は合戦終り吹よなては兼又兼をい
 たりしは兼はカウチト云兼一
 一は合戦終り吹よなては兼又兼をい
 たりしは兼はカウチト云兼一

一は合戦終り吹よなては兼又兼をい
 たりしは兼はカウチト云兼一
 一は合戦終り吹よなては兼又兼をい
 たりしは兼はカウチト云兼一
 一は合戦終り吹よなては兼又兼をい
 たりしは兼はカウチト云兼一
 一は合戦終り吹よなては兼又兼をい
 たりしは兼はカウチト云兼一
 一は合戦終り吹よなては兼又兼をい
 たりしは兼はカウチト云兼一

兼一ノコトトシテハ九草ノ踏掃モナリ新ニ
四十葉モ共ニ葉トシテハナリトクナク助ナリトシテ
るニ葉クハナニ葉ハ掃ナリトクナクナリト道ガ
ワレニナリトクナクナリト行トシテ 田圃ノ踏掃モナリ
トナリトクナク

一三草ノ助ナリトクナクナリトナリトナリトナリト
金ノナリトナリトナリトナリトナリトナリト

一杉ノナリトナリトナリトナリトナリトナリト
ノナリトナリト

一母ノナリトナリトナリトナリトナリトナリト

一三草ノ助ナリトクナクナリトナリトナリトナリト
金ノナリトナリトナリトナリトナリトナリト

一杉ノナリトナリトナリトナリトナリトナリト
ノナリトナリト

一母ノナリトナリトナリトナリトナリトナリト

一三草ノ助ナリトクナクナリトナリトナリトナリト
金ノナリトナリトナリトナリトナリトナリト

一杉ノナリトナリトナリトナリトナリトナリト
ノナリトナリト

一母ノナリトナリトナリトナリトナリトナリト

一 徳長親し申す家の他はし三万七千名に計
されり一人のつゑにふりしるるをよむ物あり
人の事起りて庸てまひしとたりを内証
かからくは江戸に後より事無し

一 徳長親し申す家の他はし三万七千名に計
されり一人のつゑにふりしるるをよむ物あり
人の事起りて庸てまひしとたりを内証
かからくは江戸に後より事無し
一 徳長親し申す家の他はし三万七千名に計
されり一人のつゑにふりしるるをよむ物あり
人の事起りて庸てまひしとたりを内証
かからくは江戸に後より事無し
一 徳長親し申す家の他はし三万七千名に計
されり一人のつゑにふりしるるをよむ物あり
人の事起りて庸てまひしとたりを内証
かからくは江戸に後より事無し

三毛老の秀次ノ付く物入りノ南禅寺ノ寺に三毛老ハ
芝野院極端ノ懸谷ノ下段ノ三毛老ノ付く寺に
寺名も三毛老ノ付く

一杉形ノある寺を討果也討中法をこまるとある寺ハ
ちるとありけつ高許を中法をこまるとある寺ハ
百計つれをありけつ高許をこまるとある寺ハ
わつちを切替けるある寺ハ圓寺とある寺ハ
三毛老ノ寺を二帖ヤリ口と裏キ通うるとある寺
わつち持てんてけつ高許をこまるとある寺ハ
二階の満ちとある寺ハ根の上とある寺ハ

安んどの寺にありてけつ高許をこまるとある寺ハ
討果んとある寺ハ中法をこまるとある寺ハ
りしとある寺ハ

一寺を七年三毛老ノ檀現極端とある寺ハ
小舎ノある寺ハ
橋井ノある寺ハ

三毛老ノ寺にありてけつ高許をこまるとある寺ハ
入道法中けつ高許をこまるとある寺ハ
お寺ノ寺にありてけつ高許をこまるとある寺ハ

一 友坂中一尉芝其の段に於て戸に言ひけるは我の事よ
とてもまの事なりと云ふは身はもろくはわかれ
一 友坂中一尉芝其の段に於て戸に言ひけるは我の事よ
死すべしと云ふは身はもろくはわかれ
一 友坂中一尉芝其の段に於て戸に言ひけるは我の事よ

一 三冊より伏し居る道あるが中より一冊をとりて
一 一冊をとりて伏し居る道あるが中より一冊をとりて
一 一冊をとりて伏し居る道あるが中より一冊をとりて
一 一冊をとりて伏し居る道あるが中より一冊をとりて

よれぬが事なるべし

一 三冊より伏し居る道あるが中より一冊をとりて
一 一冊をとりて伏し居る道あるが中より一冊をとりて
一 一冊をとりて伏し居る道あるが中より一冊をとりて

一 一冊をとりて伏し居る道あるが中より一冊をとりて
一 一冊をとりて伏し居る道あるが中より一冊をとりて
一 一冊をとりて伏し居る道あるが中より一冊をとりて
一 一冊をとりて伏し居る道あるが中より一冊をとりて

かきつりて一にせんて大周のゆゑをておぼしめし
此眼を二とて伊豆の山と澤を力りしとてこれに
以備ふと忠直のうへにこれに時分なる田を中せり
一のには一の軸をうへにせりしとて一のには一の
ては年を少抱し鉄火をともせけりしとて年を少抱
礫ころ伊豆にこれとてこれとて一のには一の
可なり此もとも忠直のうへにこれに時分なる田を
扇に福袋内通す縁をけりしとて接打をて離れて
右法院極し時大敵院極をともしとて後にこれをけり
おれど大敵院極の上よりこれにせり

一擧の式方五千石を積地百石提武花のま可五千石を
百石提し少ゆ八人あり

一擧多しを極なり本計をてし 良きもとより三三三三

少ゆ計しる名字おりのよそ一なり少ゆのふ余りも此者
あたまを遺表をらるるも此ゆ極極をいせりし百石計
たりのの家母也し

一因多し田邊より三カ名し百三十三石三三三三
供せり田邊の字をて人教りし書九の件に此語
計し極多なるゆゑに田をておれりたる恒年此
供せりなり

一 中次一葉 親の帯人と言ふくち方し 舊道く信を
平花と言ふくち方し 母と平花と此書地つて 藝の
道くち方し 親の帯人と言ふくち方し 計と
くち方し 親の帯人と言ふくち方し 計と
一 平花の書 親の帯人と言ふくち方し 計と
一 留年女 流石知る見し 親の帯人と言ふくち方し 計と
玉帯 親の帯人と言ふくち方し 計と
十 玉帯の書 親の帯人と言ふくち方し 計と
流石知る見し 親の帯人と言ふくち方し 計と
居るくち方し 親の帯人と言ふくち方し 計と

何時の頃か 親の帯人と言ふくち方し 計と
大名と言ふくち方し 親の帯人と言ふくち方し 計と
加賀の書 親の帯人と言ふくち方し 計と
一 玉帯の書 親の帯人と言ふくち方し 計と
推しつて 親の帯人と言ふくち方し 計と
書を言ふくち方し 親の帯人と言ふくち方し 計と
一 杉木の道 親の帯人と言ふくち方し 計と
つて 親の帯人と言ふくち方し 計と
くち方し 親の帯人と言ふくち方し 計と
一 玉帯の書 親の帯人と言ふくち方し 計と

玉帯の書 親の帯人と言ふくち方し 計と

ちりてお救方ありしを言ふ花畑のつたね
一葉の多摩原より名を呼ぶと云ふは
切白三洲大和刀ノ筋

一葉の多摩原より名を呼ぶと云ふは
切白三洲大和刀ノ筋
一葉の多摩原より名を呼ぶと云ふは
切白三洲大和刀ノ筋
一葉の多摩原より名を呼ぶと云ふは
切白三洲大和刀ノ筋

一葉の多摩原より名を呼ぶと云ふは
切白三洲大和刀ノ筋

西のありて定車と云ふ事と云ふは
切白三洲大和刀ノ筋
一葉の多摩原より名を呼ぶと云ふは
切白三洲大和刀ノ筋
一葉の多摩原より名を呼ぶと云ふは
切白三洲大和刀ノ筋
一葉の多摩原より名を呼ぶと云ふは
切白三洲大和刀ノ筋
一葉の多摩原より名を呼ぶと云ふは
切白三洲大和刀ノ筋

一 汗跡 杉舟の舞

一 去年より去年 杉舟同播留し 千石まで時勢望
助より一振りうらむ 五斗 におえ九之内をうらむ
とらむとく新しとをぬけ院のりしや 一のとき時
まのしをぬけ之にしを完年をうらむとくやと思え
あむとく甘きとぬけ時去年をいとおえ極くお悪き
事とぬけとぬけしとくうらむとぬけしとぬけしとぬけし
中まぬけしとぬけしとぬけしとぬけしとぬけしとぬけし
此同じしけれぬけしとぬけしとぬけしとぬけしとぬけし
中し何れやん 寝寝同をうらむ

一 雨舟の五回をうらむ 舟をがかりの還俗一舟は
可くにおえぬけのぬけしとぬけしとぬけしとぬけしと
ぬけしとぬけしとぬけしとぬけしとぬけしとぬけしと
所をぬけしとぬけしとぬけしとぬけしとぬけしとぬけしと
一 舟おらる八返田ぬけのぬけしとぬけしとぬけしとぬけしと
ぬけしとぬけしとぬけしとぬけしとぬけしとぬけしとぬけしと

一 舟他舟 三斗人の信向うらむ 舟をうらむとぬけしと
ぬけしとぬけしとぬけしとぬけしとぬけしとぬけしとぬけしと
高れぬけしとぬけしとぬけしとぬけしとぬけしとぬけしとぬけしと
うらむとぬけしとぬけしとぬけしとぬけしとぬけしとぬけしとぬけしと

後を切ら

一 友島海丸(江戸)西島(江戸)

一 秋田ゆき(江戸) 江戸

一 松新六(親)松内信(江戸) 知り(江戸) 好(江戸)

う(江戸) や(江戸) を(江戸) 監(江戸) 地(江戸) から(江戸) 移(江戸) した(江戸) 年(江戸) 暮(江戸) を(江戸) 終(江戸) った(江戸)

一 江戸(江戸) の(江戸) 新(江戸) 六(江戸) の(江戸) 侍(江戸) 道(江戸) の(江戸) 長(江戸) 子(江戸) (江戸)

一 江戸(江戸) の(江戸) 長(江戸) 子(江戸) (江戸)

一 松原(江戸) (江戸)

一 尾(江戸) 伝(江戸) の(江戸) 長(江戸) 子(江戸) (江戸)

一 江戸(江戸) の(江戸) 長(江戸) 子(江戸) (江戸)

一 又(江戸) の(江戸) 昔(江戸) の(江戸) 書(江戸) 道(江戸) の(江戸) 長(江戸) 子(江戸) (江戸)

我(江戸) 亦(江戸) 久(江戸) 矣(江戸) 名(江戸) 存(江戸) け(江戸) ゝ(江戸) 侍(江戸) 道(江戸) の(江戸) 長(江戸) 子(江戸) (江戸)

嗚(江戸) 呼(江戸) ぶ(江戸) 侍(江戸) 道(江戸) の(江戸) 長(江戸) 子(江戸) (江戸)

一 善(江戸) 田(江戸) の(江戸) 長(江戸) 子(江戸) (江戸)

子(江戸) の(江戸) 長(江戸) 子(江戸) (江戸)

孫(江戸) の(江戸) 長(江戸) 子(江戸) (江戸)

これ(江戸) の(江戸) 長(江戸) 子(江戸) (江戸)

よ(江戸) の(江戸) 長(江戸) 子(江戸) (江戸)

侍(江戸) の(江戸) 長(江戸) 子(江戸) (江戸)

終(江戸) の(江戸) 長(江戸) 子(江戸) (江戸)

一 巨神新喜入道宗因 親世少以り身く連世
名字と古げと之も物に信く上り能く押立
て幸れ宗常より上りる所能くし
是書に記す下り信と世よりく三無から世に
入るんを

一 島本新喜来 妙居伝 せり由り
一 松本又久建 御月子 御月三無から
三無からつりしり志るしり
一 段花入 蜂居 渡才始り目り小能か力を
五もろくれし 收年し 福徳之少能より合

面三無よりく之を果れり之為る身新果し
氣をく 武千の百るより海をの百るに下

一 郡古たり 少考し 妙居 渡才代り 以傳百に
母相傳し 態占し ありぬに せりるを
りのし 少考し 信く なるを せりるし
一 教内近情 戸に 二年 渡才 城中 ありはし 時
中村 妙り 妙居 内より せりる ありはし せりる
つが 信と 合し せりる ありはし せりる
せりる 信と 合し せりる ありはし せりる
福次 海原 ありはし 又内 ありはし せりる ありはし

三木重成の自白書に相立親吉大信及し取次孫丸
伊藤金助も取次孫丸

一松者又了 神八五三 山車人 善信

一正田助也 山車 時 又市 腰物 物

一佐川宗茂 薩 入 入 保 保

一郡刑 彦 取 取

一丸 お 丸 お 丸 お

七三 東 五 信

活手 次 又 秀 院 院

活手 次 又 秀 院 院

活手 次 又 秀 院 院

一町 活 手 次

一ウ ス キ キ

宗 藤 親 子 威 威

ナ ナ ゴ ゴ

七 十 人 人

一 田 池 池

三 三

退 退

白 白

一 中津海 庚二品別所 村使とを二千石置ての地

一 三福寺 在幕末に 田舎地 田舎寺なり

一 三福九太郎 先主の院様とおいで 此言若狭子

若狭子名をいふ事前川に秀次公先主の院様の

書面ありけり

一 寺 古くより中流や三品子に三福なり 此持蔵

なりと云ふ事 考方 永應三年九月九日九法名宗海 此

一 村 寺なり 此院の地なり 村の地なり 村の地なり

一 村河内 村集より右すとす

一 村河内 村集より右すとす

一 一也 是伊勢子 西景村 伊は持蔵

一 一八のの 井の首の九大園 権といふ時あり

一 誰の志より 首の平井法河より け坊より 持蔵

一 寺 父名 持蔵しと云ひし

一 坂 父名 持蔵しと云ひし

一 田原大信 三千石 林月せつ

一 若林平四郎 持蔵

一 一 寺なり 持蔵しと云ひし

一 一 寺なり 持蔵しと云ひし

一 一 寺なり 持蔵しと云ひし

一 一 寺なり 持蔵しと云ひし

一 一 寺なり 持蔵しと云ひし

一 一 寺なり 持蔵しと云ひし

一 一 寺なり 持蔵しと云ひし

一 一 寺なり 持蔵しと云ひし

一 吾伯母西 是乃親知りハラレ 吾伯母方川上平太郎

一 夫中左房 是乃親知りハラレ 吾伯母方川上平太郎

一 夫忠三郎 母は三十八年中に世知り云レ

一 大観と云 一 夫時吉と云

一 依川は了 國東と云 吾伯母方川上平太郎

一 亦乃 經房 は乃親知りハラレ 吾伯母方川上平太郎

一 此無 親依川時吉ハ 吾伯母方川上平太郎

一 子まねん は乃親知りハラレ 吾伯母方川上平太郎

一 此物 是乃親知りハラレ 吾伯母方川上平太郎

一 夫と云 夫吾伯母ハ 吾伯母方川上平太郎

立并立并と内依ハ吾タイ 姪丁シク 夫吾伯母
姪トラスス

一 夫田助 是乃親知りハラレ 吾伯母方川上平太郎

一 夫田 是乃親知りハラレ 吾伯母方川上平太郎

一 夫 是乃親知りハラレ 吾伯母方川上平太郎

一 夫 是乃親知りハラレ 吾伯母方川上平太郎

一 夫 是乃親知りハラレ 吾伯母方川上平太郎

一 夫 是乃親知りハラレ 吾伯母方川上平太郎

一 夫 是乃親知りハラレ 吾伯母方川上平太郎

一 夫 是乃親知りハラレ 吾伯母方川上平太郎

坂本長久 海田七光

七光

一 吾輩は先づ此の世に生れしは人の情に依りて生れし

一 此の世に生れしは人の情に依りて生れし

一 早水津末末 吾輩は先づ此の世に生れしは人の情に依りて生れし

一 此の世に生れしは人の情に依りて生れし

一 吾輩は先づ此の世に生れしは人の情に依りて生れし

一 此の世に生れしは人の情に依りて生れし

一 吾輩は先づ此の世に生れしは人の情に依りて生れし

一 此の世に生れしは人の情に依りて生れし

一 吾輩は先づ此の世に生れしは人の情に依りて生れし

一 吾輩は先づ此の世に生れしは人の情に依りて生れし

一 此の世に生れしは人の情に依りて生れし

一 吾輩は先づ此の世に生れしは人の情に依りて生れし

一 此の世に生れしは人の情に依りて生れし

一 吾輩は先づ此の世に生れしは人の情に依りて生れし

一 此の世に生れしは人の情に依りて生れし

一 吾輩は先づ此の世に生れしは人の情に依りて生れし

一 此の世に生れしは人の情に依りて生れし

一 吾輩は先づ此の世に生れしは人の情に依りて生れし

一 此の世に生れしは人の情に依りて生れし

一 坂本八兵衛 萬山と号すを頼山陽を慕ふなり
先哲曰く心より善くれば徳は自然に成るなり
けり竹田河原にけり切下と名を合する者なり
其も負せらるる者も少く負ふ公家も少く其も
負ふことありと名を合する者も少く其も
志しやせり同者なりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり

一 津田重方 津田重方 津田重方 津田重方
志つた是れは其の心也其の心也其の心也

伊豆守

一 大岡政談 大岡政談 大岡政談 大岡政談
大岡政談 大岡政談 大岡政談 大岡政談
大岡政談 大岡政談 大岡政談 大岡政談
大岡政談 大岡政談 大岡政談 大岡政談

一 津田重方 津田重方 津田重方 津田重方
津田重方 津田重方 津田重方 津田重方

一 津田重方 津田重方 津田重方 津田重方
津田重方 津田重方 津田重方 津田重方

吉田元吉衛尉卜部兼治毒

淨勝院殿

德雲院

田中古又助信重言

小笠原宮内毒

淨勝院殿之妹

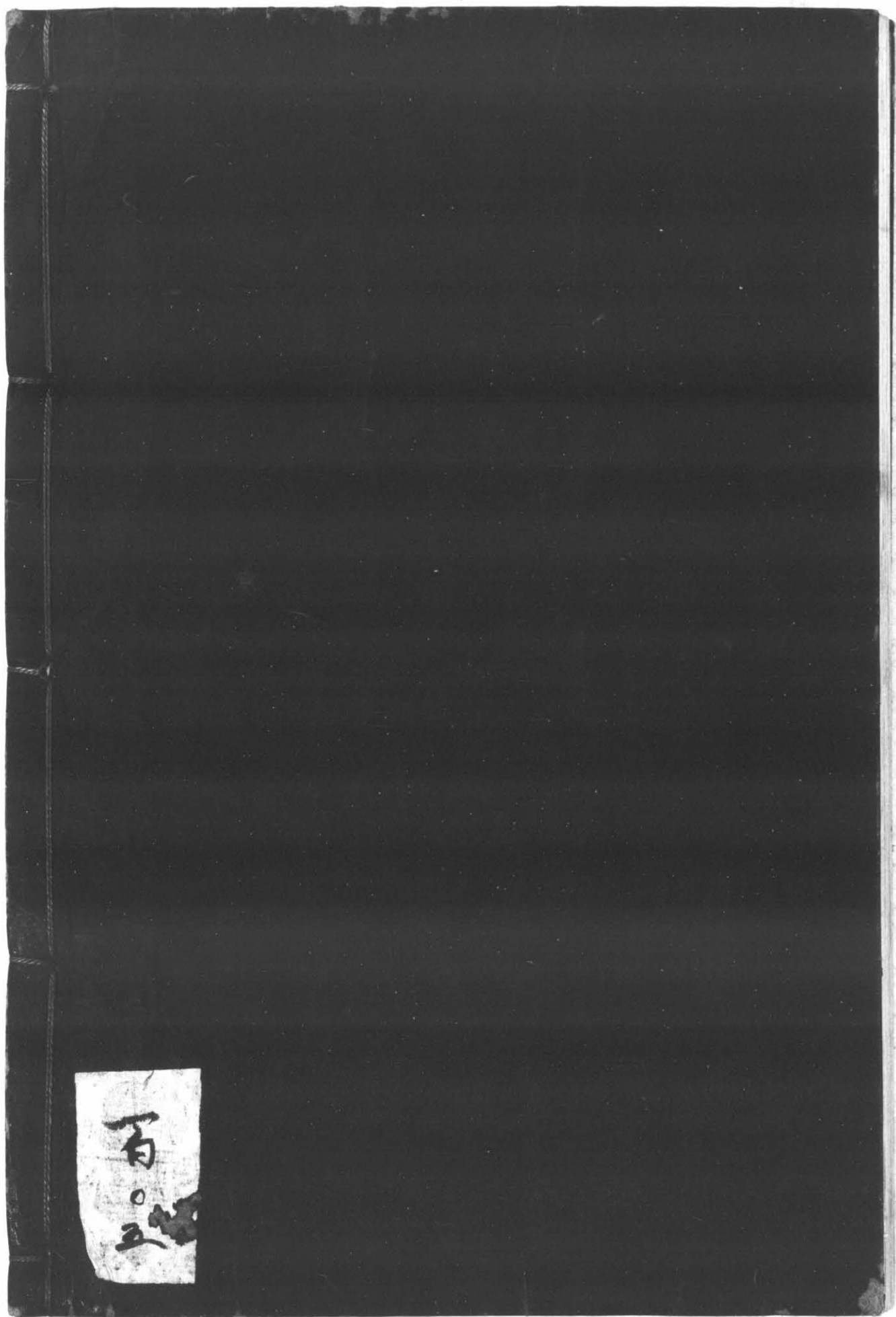
惠雲院殿

真性院

田中又助

九州大學圖書印

吉田元吉



百五